

## 土屋敏夫教授追悼の辞

信州大学農学部附属農場主事、信州大学教授 土屋敏夫先生には昭和63年8月27日早朝、心不全のため御自宅で急逝されました。

ここに謹んで追悼の意を表します。

先生は、昭和2年8月、長野県下高井郡木島平村で出生されました。そして大戦の激動期に青春を過ごされたのち、信州大学農学部の前身、長野県立農林専門学校へ進まれ、その第1期生として昭和23年に卒業されました。先生の人格と見識は恩師川延謹造教授をはじめ諸先生から高く評価され、ただちに同校の作物学研究室に採用されました。

その後、昭和24年には農林専門学校が信州大学農学部へ移行しましたが、当時の貧困な施設・設備のもとでコメ、ダイズ、及びササゲの生化学的研究に没頭され、東京大学での内地留学も修了されました。

昭和44年には野辺山農場が農学部所管となりました。先生は時を同じくして附属農場へ移られ、以来、構内農場、野辺山農場双方の整備と充実に手腕を発揮され、多忙な農場運営にもめげず、水稻の慣行栽培法の成立要因に関する研究を遂行されました。また、近年は、幼苗を用いた水稻の省力栽培体系の確立に情熱を傾けていられました。

このような40余年にわたる長い在職期間中、先生には研究はもとより学生の教育にも力を注がれ、多数の有為な人材を世に送り出すとともに、4,500余名の同窓生の動向を掌握して卒業生相互の交流と社会活動を助長しつづけてこられました。

先生の御逝去はまったく予想しえないことでした。前日の夕方まで学生と水田に入り、調査に汗を流し、談笑していられた御姿が思い出されます。

先生の豊かな見識と温厚なお人柄に再び接することができなくなった今、寂しさひとしおです。ましてや御家族の心中いかばかりかと御推察申し上げます。

農場報告第5号発刊にあたり、農場職員一同、土屋教授の御業績を讃え、遺志について教育・研究に尽力することを御誓い申し上げるとともに、御霊の安からんことを祈念して追悼のことばとさせていただきます。

平成2年1月

信州大学農学部附属農場 農場長 登内 徳一郎